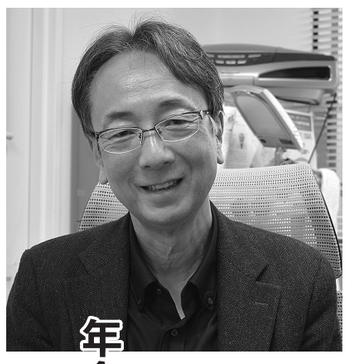
第48回 日本分子生物学会年会

12月３～５日 パシフィコ横浜で開催

何かが変わる「このゆび、とーまれっ」企画
様々な人と交流する機会に

日本分子生物学会（ＭＢＳＪ）は、第48回年会を12月3～5日、パシフィコ横浜で開催する。今回のテーマは「このゆび、とーまれっ〃Ｌｅｔ，ｓ ｇａｔｈｅｒ，ｈｅｒｅ，ｉｎ Ｙｏｋｏｈａｍａ！〃」。コロナ禍後初めてとなる完全対面開催だ。指定シンポジウム、公募シンポジウムなどのシンポジウム162企画、フォーラム16企画、ポスター発表を2933演題と、生命系学会としては日本最大規模の学術大会となる。早期参加登録者も４５０８人（11月11日現在）とコロナ禍以降最多だ。初めての試みとして、マッチングイベント企画「このゆび、とーまれっ」が予定されており、多くの参加者にとって、様々な人と交流する機会になりそうだ。年会長の小林武彦・東京大学定量生命科学研究所教授に、今年会の狙いなどを伺った。

（第48回日本分子生物学会年会特集　3～5面）



年会長　小林武彦氏に聞く
（東京大学定量生命科学研究所教授）

現地に集まる機会いかす

――今回は完全対面開催になりましたね

ちょうど、パシフィコの運営会社がクルーズ船事業を開始したということもあり、プロモーションも兼ねて、比較的安価に契約できたので、会議センターの前にある埠頭から一番大きなクルーズ船を出してもらい、そこで招待講演者と世話人を招待して、１００名くらいの規模で前日にレセプションを開催します。

予算のめどがたった9月になってからお声がけしたので、すでに予定が入っている方は調整が難しいかなと思ったのですが、皆さん、喜んで参加するということで、１００名弱の外国の方が参加します。

年会ではしばらく懇親会もなかったので、いろいろな国・分野の招待講演の方々が交流する機会として、日本人の世話人も含めて分野を超えた交流のできる良いおもてなしになることを期待しています。

――マッチングイベント企画「このゆび、とーまれっ」

「このゆび、とーまれっ」は、新しい出会いから革新的な研究のタネを作るマッチング企画を会員の皆さんに提案したものです。「○○の研究をやりたい人この指とまれ」「留学先に悩んでいる人この指とまれ」「招待講演者の○○先生と○○について語りたい人この指とまれ」「科研費申請で悩んでいる人この指とまれ」「博士課程進学で悩んでいる人この指とまれ」のような感じで、初対面の人と知り合いになる企画を提案してくださいと。事前登録で5名を超えたら企画成立で、成立したグループには、語り合う場として、テーブルとドリンク、おつまみを提供するというものです。初日と2日目の夜7時15分から75分間。当日の飛び入り参加もOKで、夢を語り、仲間を作り、将来の革新的イノベーションにつながる場にしようと。話が盛り上がったら、引き続きkeep in touchで共同研究の芽を育ててください。もちろんそのまま2次会に行ってもらってかまいません。

最初はどれくらい集まるのかと心配していたのですが、40の企画で事前登録だけで約４００名が集まりました。ホームページ上で私から「ノーベル賞を取りたい、あるいはそれに匹敵するような大発見がしたい人この指とまれ」というのを提案していたのですが、企画がいっぱいになったので、やめました（笑）。

以前から、私が年会で気になっていたことなのですが、大きなラボから来る人は、その後、飲みに行ったりして楽しそうにしているんです。でも、そうではない人も結構多い。ちょっと来てすぐ帰っちゃうような。

せっかくみんな現地に集まるんだから、やはり知り合いを増やしてもらおうかなと思って、何でもいいから自分で仲間募集みたいな企画を立ててもらって5人以上集まったら成立というかたちをつくったんです。結局、全ての企画が成立しました。

大学院生集まれ、といったざっくりした企画もあるし、ある研究テーマに絞って、これに興味のある人この指止まれといったことを考えた方もおられて、まだやってみないとどこまで成功するかはわかりません。

一つ心配しているのが、その「大学院生この指とまれ！」という企画です。40人とか50人くらい集まっているんですよ。当日参加が加わると、もっと多くなる。楽しくワイワイっていう感じから、すごいワイワイになってしまう。今ちょっとどうやって回すかっていう提案をこちらからも考えてお手伝いさせてもらおうかなと思っています。

お酒（福井の地酒）も、ビールも、もちろんジュースも出すし、いろんな人と知り合いになればいいかなと思ったのですが、この規模は想定外だったので、たとえば小グループに分けて、みんなで大学院生の抱える問題を出し合って、最後にそれぞれのグループが発表して盛り上がるみたいなあんまり人数が多いと、何か企画を練らないと、結局その中でも誰ともしゃべらない人が出てきてしまいそうですからね。それでは趣旨に合いません。

会場自体は、展示ホールを使うので十分な広さがあり、その点は心配していないのですが、交流して、顔と名前を覚えてワイワイ交流するというのは、10人くらいが限界かなと思うので、一つの企画に集中しすぎてしまっている場合は、小さなグループに分けて、途中でグループを入れ替えるとか、何らかの仕掛けが必要だと思います。

実は私も30年以上、分子生物学会に所属しているのですが、約1万2000人の会員のうち、知り合いというのは1～2％程度です。会場ですれ違う人はほとんど知らない、20～30人くらいとすれ違うと、一人知り合いがいるかなという感じですね。思ったよりも混ざっていない。入れ替わりもあるし、いろいろな分野の方がおられるので、違う分野の方と知り合うきっかけがなかなかないのが現状です。

ヒトのゲノムの2％だけが遺伝子領域（エクソン）で98％は非コード領域なんです。その98％を探るというのが、私自身の研究テーマの一つでもあるのですが、分子生物学会会員の私の存じ上げない98％の会員と会話して、どういう人がいるのか探る。２日間、すべての企画を回って、私なりに知り合いを増やそうと思っています。同じ時間帯にフォーラムも企画いただいています。今年の年会は夜までお楽しみください。

子育て中の研究者を応援

――今回企画を出してくれたのはどういった方が多いのでしょうか

やはり、年齢層は、若い方が多いですね。それに加えて、外国の機関に所属している方も頑張って協力してくれていて、「アメリカで研究したい人この指とまれ！」「海外研究キャリア相談会：ポスドクの視点から」といった企画は、海外機関に所属している方が、留学を促す企画を提案してくれています。

また「研究と育児のクロスロード：リアルを共有する交流会」という、子育て中の研究者を中心に、家族のケアと研究を両立している人、またはその実情に理解と関心のある研究者を対象にした企画もあります。実はこの企画だけ、昼間にやります。子育て中で悩みを相談したい人など、幅広く参加できるようにしています。ぜひ、つながりを作ってほしいですね。

押し付けではなく、自主的にこういうことをやってくれるというのは、非常にありがたいです。本当は、自由に集まれるように会場だけを提供して、というくらいが良いのかもしれないのですが、逆に、こういった企画がないと、小さな研究室に所属している若い人たちが知り合いを作れないんですよ。だから、これはゼロ次会で友達を作って、その後、1次会、2次会に繰り出してもらおうと。

来年以降もぜひ続けてほしいと、次の年会長の水島先生にもお願いしているのですが、今回の様子を見てからとのこと（笑）。

高精度の翻訳を試験導入

――AI同時通訳を導入

年会の発表の半分以上が日本語のセッションです。値段が高いので、全部の会場には導入できなかったのですが、参加者が多いシンポジウムの会場でポケトークを入れました。名前が変わって、Ｓｅｎｔｉｏ・カンファレンスプランというのですが、AIを組み込んで各分野に特化して翻訳をしてくれるので、ネイティブの英語から日本語への翻訳はほぼ完璧です。日本語を英語にするのも精度が高い。ただ、日本人の英語がどこまで精度良くできるのかはわかりませんが（笑）。

会場でQRコードを読み込んでもらえれば、それぞれのスマホで翻訳をしてくれます。これもいろいろな意見があったのですが、分子生物学会の年会は学生さんも多くいるし、外国の方が日本語の発表を聞けないというのは残念ですから、また少し違う分野の発表を聞くきっかけになると考えて、試験的に導入してみました。

5人以上が集い語り合う

異分野の面白い話を聞く

――今回はシンポジウムも結構たくさんありますね

横浜会場は会議室が多くとれることもあり、やりたいという企画は何とかしてやっていただく、というのが主催者側の仕事だと思うので、全部採択しました。一部はフォーラム企画への変更をご依頼しました。

たまに学会の趣旨とは異なる企画が出てくることもあるので、そういったときは、別の方向に考えてもらったりといったことをやっていたのですが、今回は素直に全て採択しました。ただ、時間については、少し短めにしてもらったりと調整はさせていただきました。公募シンポジウム98件、ミニシンポジウム54件。フォーラム16件。

皆さんがやりたいことを存分にやれるような学会になっていると思います。

――ポスターセッションの見方

まずはピンポイントですね。分子生物学会は予習が大切で、とにかくプログラムの表題だけは全部見て、関係ある発表の番号を全部控えておきます。その番号のところに、最初に行くわけですが、発表者がおられなかったり、人が多くて見えなかったりすることもあるので、そこを飛ばしていくと、毎日20ぐらいいつも予定しているのですが、実際には3分の1も聞けないです。

後は、ずっと回ってて、面白そうなポスターの人のところに行く。全てのレーンを回ります。そうしないと損した感覚があって、自分と違う分野で面白そうに話している人がいたらとりあえず聞いてみますね。すごく基本的なことから。私は科学オタクなので。

大昔、分子生物学会の最終日は後片付けの関係で早めに終わっていました。その日はどのカテゴリーにも入らない「その他的？」な発表が多くて、それを聞くのが好きだった。聞いている人も少なくて、発表している人は「また最終日かよ」みたいなことを言いながら。でも、もしかしたらその中から面白いものが出てくるかもしれない。他のカテゴリーに入らない研究。例えば、新しいDNAの構造を発見とか。最近はそういったものはなかなか出ないですね。

【4面に続く】

KUBOTA Centrifuge
ノンフロンモデル M300FR 新発売

フロン排出抑制法の対象外です。
●3カ月ごとの遠心機の冷凍機簡易点検が不要で、管理者の作業負担を軽減します。
●フロン類充填、回収業者への依頼、証明書の発行・管理が不要であり経済的です。

F-gas free ノンフロン遠心機ラインナップ

フロア型冷却遠心機
S700FR
F-gas free
最大処理量：750mL×4
最高回転数：12,000rpm

卓上冷却遠心機
S700TR
F-gas free
最大処理量：750mL×4
最高回転数：12,000rpm

フロア型冷却遠心機
S500FR
F-gas free
最大処理量：500mL×4
最高回転数：8,500rpm

NEW

高速冷却遠心機
6200
F-gas free
最大処理量：500mL×4
最高回転数：16,000rpm

卓上高速冷却遠心機
M500TR
F-gas free
最大処理用：500mL×4
最高回転数：15,300rpm

卓上冷却遠心機
S300TR
F-gas free
最大処理量：15mL×24
最高回転数：4,000rpm

マイクロ冷却遠心機
M300FR
F-gas free
最大処理用：38mL×6
最高回転数：15,300rpm

KUBOTA
久保田商事株式会社
www.kubotacorp.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷3-29-9　TEL.03-3815-1331　FAX.03-3814-2574
札　幌 011-751-2175　仙　台 022-287-2181　つくば 029-856-3211　名古屋 0561-64-2351
大　阪 06-6762-8471　広　島 082-871-7811　福　岡 092-621-1161